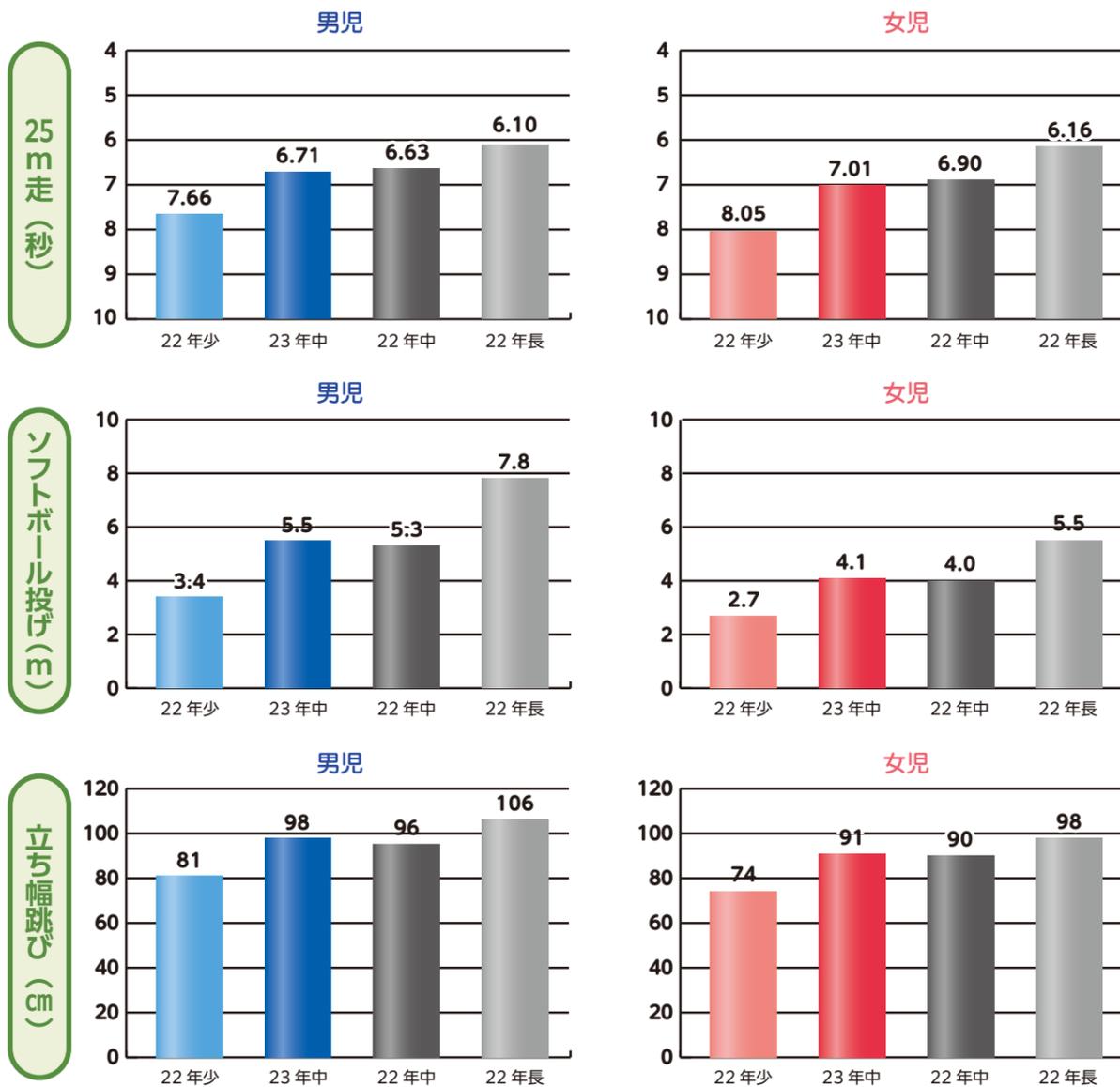


本年度の効果検証の結果

子どもたちの体力が発育を超えて高くなってきた！

本プロジェクトでは、約350名の幼児（対象児）に対して、2022年の年少時と2023年の年中時に2年連続の体力テストを行った。下図のように、年少時（水色・桃色）から年中時（青色・赤色）にかけて、男女ともに走能力（25m走）、投能力（ソフトボール投げ）、跳躍能力（立ち幅跳び）のすべての体力が大きく伸びていることが見て取れる。

また、本プロジェクトでは、対象児の年中や年長での体力の伸びを把握するために、2022年の年中児と年長児（比較児）の体力を測定した。対象児と比較児で年中での体力を比較すると、ソフトボール投げと立幅跳びでは、対象児の体力が高く、特に男子で際立っていることが見て取れる。これは、年少から年中にかけて様々な運動遊びを行った結果、対象児の体力が発育を超えて伸びたことを示している。今後も大いに運動遊びを楽しみ、来年には2022年の年長児の体力を大きく超えて伸びていくことが期待できる。



注) 22年少：2022年に年少の対象児
 23年中：2023年に年中の対象児
 22年中：2022年に年中の比較児
 22年長：2022年に年長の比較児



つよいぞ！ぎふっ子プロジェクト
 令和5年度の
 取り組み及び成果報告



本事業推進園

- とみおか保育園、伊自良保育園、高富保育園、綾里幼保園、三城幼保園、ゆりかご保育園、大中保育園、白鳥こども園、土岐津小学校附属幼稚園、泉小学附属幼稚園、西部子ども園、久々野保育園、高山南保育園、龍華保育園

令和5年度
☆☆☆
つよいぞ!
ぎふっ子
プロジェクト

本事業の背景

我が国の子どもたちの体力は、昭和世代に比べ年々低下傾向を示してきた。さらに、近年のスクリーンタイムの増加やコロナ禍の影響を受け、日々の身体活動が大幅に制約され、体力はかなり低下してしまった。

幼少期の運動遊びを通じた身体活動は、単に子どもの体力増加だけでなく、心の強さや社会性など非認知能力の発達にも寄与することから、失いつつある運動習慣を取り戻す必要がある。



本事業の目的・趣旨

“運動遊び”を通じて、からだを動かすことが好きな子どもや、からだを動かすことが楽しいと感じる子どもを育て、生涯を通じてスポーツ・運動に親しむ基礎・基盤の構築を目指す。決してトレーニング的にしないことが大原則!!

本事業の概要

岐阜県内5圏域（岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨地区）より実践市を選出し、その実践市からそれぞれ2~3園を推進園として認定したうえで、本プロジェクトを実践する。本プロジェクトの対象児は、令和4年度に年少児で、3年間継続して運動遊びを促進させ、その効果を検証していく。

なお、本プロジェクトは岐阜県と（公財）岐阜県スポーツ協会、そして、運動やスポーツ科学を専門とする県内大学教授陣の3者が協力して展開していく。

本事業の主な内容

- ①推進園の園児を対象に、園における毎日の活動の中にアクティブチャイルドプログラム(ACP)を活用した運動遊びを積極的に導入する。
- ②週に数回、リズムダンス（足が速くなる魔法のダンス）を行う。
- ③保育者に対する実技講習会及び定期的な実技指導と実践評価を行う。
- ④保護者に対する講演会（YouTube 配信含む）及び成果報告などの資料・情報提供を行い、子育てに役立ててもらう。
- ⑤園児の運動能力測定と効果検証を行う。
- ⑥公開授業を積極的にを行い、全県下への普及を目指す。

本事業の成果と目標

どの子ども自ら進んで運動遊びにいそしみ、仲間とともに活発な生活を送る基盤を育む。その中で非認知能力の向上を目指し、強い心と高い社会性を養い、さらに基本的な生活習慣の定着に寄与する。
元気に遊び込んだ結果として、3年後の卒園時の基礎的運動能力が小学生1年生レベルに到達することを目標とする。

本事業の指導スタッフ（岐阜県内5大学教授陣）

| | | |
|------------|-----------|-------------------------------|
| 全地区統括指導助言者 | 春日 晃章 教授 | 岐阜大学【子ども発達学、博士（医学）】 |
| 岐阜地区（山県市） | 内藤 譲 教授 | 岐阜聖徳学園大学短期大学部【運動学、博士（経営情報科学）】 |
| | 小椋 優作 講師 | 中部学院大学短期大学部【発育発達学、博士（経営情報科学）】 |
| 西濃地区（大垣市） | 本田亜紀子 教授 | 朝日大学【運動生理学、博士（体育学）】 |
| | 篠田 知之 准教授 | 岐阜協立大学【運動生理学、修士（体育科学）】 |
| 中濃地区（郡上市） | 有川 一 教授 | 中部学院大学【生理学、博士（医学）】 |
| | 東海林沙貴 助教 | 中部学院大学【体育科教育、博士（スポーツ科学）】 |
| 東濃地区（土岐市） | 小栗 和雄 教授 | 岐阜聖徳学園大学【運動生理学、博士（医学）】 |
| | 熊谷慎太郎 講師 | 岐阜聖徳学園大学【バイオメカニクス、修士（体育学）】 |
| 飛騨地区（高山市） | 春日 晃章 教授 | 岐阜大学【子ども発達学、博士（医学）】 |
| | 大坪 健太 講師 | 岐阜協立大学【学校教育学、博士（学校教育学）】 |

本年度の活動の様子

2年目の体力測定

本プロジェクトの効果を継続的に検証するため、プロジェクト2年目の年度末に立ち幅跳び、ソフトボール投げ、25m走の測定を実施した。



リズムダンスの継続的・漸進的な実施

子どもたちの発育発達に合わせ、1年目から始めたオリジナルの「足が速くなる魔法のダンス」を発展させた「同ダンス=レベル2=」を各園で継続的に実施した。子どもたちの活動量と運動強度を確保しながら、アップテンポな音楽に合わせて走りに必要な多様な運動をほぼ毎日実施した。



投げる運動を中心としたACPの実施

1年目は上記のダンス等によって走能力が大幅に向上したため、2年目は投能力を高めることを目標として投げる運動を中心としたアクティブチャイルドプログラム(ACP)を実践した。新聞とビニールテープでボールを作り、的に当てる、壁を越える、カゴに入れるなど多様な投げる運動がゲームとして行われた。



事業の取り組み動画

